

令和元年 7 月 31 日

和泉市長 辻 宏康 様

和泉市立総合医療センター経営評価委員会
委員長 高 杉 豊

平成 30 年度 和泉市立総合医療センターの指定管理者による
管理運営状況の評価について (答申)

平成 30 年 7 月 24 日付けで和泉市長から諮問のあった標記について、下記のとおり答申します。

記

1. 評価の考え方

指定管理者（医療法人徳洲会）から平成 30 年度の管理運営実績の報告を受け、本委員会で点検、評価を行った。評価方法は、第 3 項に掲げる点数方式による評価とともに、数値では表示しがたい点については、第 4 項に本委員会からの意見を付した。また、平成 29 年 3 月に策定された和泉市立病院新改革プラン（以下「新改革プラン」）についても実施状況の評価を行った。

2. 平成 30 年度管理運営の概況

①救急患者数及び救急搬送

24 時間 365 日救急医療の再開により救急患者受入が増加した。

	平成 30年度	平成 29年度	差 (増減率)	新改革プラン 平成30年度 目標値	備考
救急患者数	14,820人	10,370人	4,450人 (+42.9%)	10,050人	24時間365日救急受入再開

和泉市消防本部からの救急搬送は前年度比 76.9%の増となった。

	平成 30年度	救急搬送 受入率	平成 29年度	救急搬送 受入率	前年度比較 (増減率)	新改革プラン 平成30年度 目標値	救急搬送 受入率
救急搬送件数	2,351人	26.3%	1,329人	15.7%	1,022人 (+76.9%)	3,700人	43.5%

②患者数

入院患者数、外来患者数ともに、前年度実績及び新改革プラン目標値を上回る結果となった。

	実 績			平成30年度 新改革プラン 目標値
	平成30年度	平成29年度	比較(増減率)	
1日当たり入院患者数 (退院日の患者を含む)	299人	230人	69人 (+30.0%)	270人
1日当たり外来患者数	850人	559人	291人 (+52.1%)	549人

③収支状況

患者数増に伴い、医業収益が増収となったことで大幅な増益となった。

	平成30年度	平成29年度	前年度比較	新改革プラン 平成30年度 目標値
経常損益	1,154,032千円	41,334千円	+1,112,698千円	216,000千円
経常収支比率	112.8%	100.7%	+12.1	103.0%

3. 評価1(評点結果)

評価対象	NO	評価項目	評点
管理(基本的事項)	1	建物・設備・備品は利用に支障をきたさないよう管理できているか	4
運営(基本的事項)	2	施設利用者数の状況はどうか	4
	3	収支計画の達成状況はどうか	4
医療サービス	4	病院の理念及び基本方針の方向性は適切か、周知はされているか	3
	5	必要なスタッフ(医師・看護師等)の確保と人材育成はできているか	4
	6	救急医療体制の整備は進められているか	4
	7	医療機器の更新、整備の取り組みは進められているか	4
	8	地域医療機関との連携強化はなされているか	3
施設利用サービス	9	ホームページ等、広報・PRは効果的に実施できているか	4
	10	待ち時間は適切であったか	3
	11	施設利用利便性向上の取り組みや自主事業等の実施状況は	4
	12	職員の接遇について、適切に行われているか	3
危機管理	13	危機管理マニュアル作成や医療安全、情報管理の取り組み状況は	4
	14	災害時医療の体制整備の取り組みは進められているか	4
利用者の評価	15	患者アンケートを実施しているか、結果を運営に反映させているか	3
	16	ご意見箱の意見に適切に対応できているか	3
合計点			58
合計点数	合計(58点/64点) 合計評価点(91点/100点)		
総合評価	(S ・ AA ・ A ・ B ・ C)		

評点の考え方	割合(%)	点数
優れている	86 ~ 100	4点
できている	71 ~ 85	3点
概ねできている	56 ~ 70	2点
やや劣っている	41 ~ 55	1点
劣っている	0 ~ 40	0点

総合評点の考え方	総合評価
合計点数 90点以上	S
" 80~90点未満	AA
" 70~80点未満	A
" 60~70点未満	B
" 60点未満	C

4. 評価 2(本委員会からの付帯意見)

①運営状況

- 将来の施設修繕、医療機器更新に備えた安定経営とともに、更なる医療の質の向上、施設利用者へのサービス向上に取り組まれない。

②医療サービス

1)必要なスタッフの確保と人材育成

- 職員の健康管理も大切である。しっかりとフォローされたい。

2)救急医療

- 救急搬送では、受け入れ体制を強化し、市外搬送を減少させるよう努力してほしい。
- 重症患者を診るためには、救急当直医の体制強化が必要である。

3)危機管理・医療安全

- インシデントの報告が増加していることは評価できる。
- 業務過剰で医療スタッフが忙殺された場合、個々の患者に目が届きづらくなり医療事故の原因になるので注意が必要である。

4)地域医療機関との連携

- 急性期病院としての役割を果たすためには、地域医療機関との病病連携、病診連携を密にし、さらに逆紹介率を上げることが望ましい。

③施設利用者へのサービス

- 職員の接遇については、毎年4月に新職員が採用され、訓練していく必要があるため、継続して取り組んでいただきたい。
- 自動精算機の増設やトイレの小物置き場の改善等、迅速に対応している。

④利用者の評価

- 新しい病院に対する患者の期待に応えていくためにも、患者アンケートを実施し、意見を運営に反映されたい。

5. 総括

最新の医療機器を導入した新病院の移転開設や医師の増員が行われたことにより、和泉市立総合医療センターの初年度の運営は好調なスタートを切った。

特に、これまで長きに渡り十分な機能を果たしていなかった救急医療について24時間365日の救急受け入れを再開したことは、公立病院としての使命を果たすために重要な項目として高く評価したい。

また、診療科を従来の16科から33科へと増設し、がん診療等の高度専門医療の充実を図ったことにより、地域の中核病院に求められる機能整備が着実に進められていることが認められる。

また、患者増に対してはCT、MRIの増設等により患者待ち時間対策にも対応するとともに、一部診療科においては土曜日診療を開始するなど、患者サービスの向上にも確実に取り組んでいる。

これらの結果、本年度における管理運営状況としては、入院・外来患者数、収支決算ともに、前年度を上回り、想定を超える好成績となった。

好調の要因として、医師の増員や医療機器の更新の他にも、新病院への移転

を円滑に実行し、効率的な病床管理を実行するなど、運営面での手腕によるものも大きいと考えられる。

継続課題としては、地域の医療機関との連携を強化し、紹介率、逆紹介率を向上させ、総合医療センターの名に相応しい、地域の拠点病院としての役割を果たしていくことである。

今後も市と協力しながら医療水準の向上に取り組み、市民に信頼される病院になることを期待する。